（第3種郵便物認可）　中国新聞

# 「再稼働反対」4万人デモ

## 国会議事堂周辺、市民訴え

国内の原発が全て停止状態となっている中、原発再稼働を進める政府への大規模な抗議活動が十三日、東京・永田町の国会議事堂周辺で展開された。真夏を思わせる暑さの中、市民が「再稼働反対」を強く訴えた。

毎週金曜日に首相官邸前で抗議活動をしている「首都圏反原発連合」など三団体が共催し、約四万人（主催者発表）が参加した。

冒頭、日比谷公会堂で開かれた集会では、作家の大江健三郎さんが「3・11で、多くの日本人が原発の全廃を決意したはずだが、二年半たって危うくなっている。これからの半年、この決意を譲ってしまうと、もう再稼働の流れを押し返すことはできない」と活動の重要性を強調した。

広島への原爆投下についても触れ「私たちは広島を経験し、五十数基の原発をつくり、大きい事故を起こしてしまった。今どうするか。広島から現在を貫いて、将来の子どもたちが生きていく社会、世界を取り返すことが必要だ」と熱弁を振るった。

広島で被爆し、医師としてほかの被爆者の治療にも取り組んできた肥田舜太郎さんは「もうひとつ原発事故を起こしたら、日本は滅びる。放射線の被害が、ひ孫や玄孫（やしゃご）の代にまで及ばないよう、全ての原発を止めるのが今生きている日本人の責任だ」と呼び掛けた。

約二千席の会場は満席で、入れない人が屋外にあふれるほどの熱気に包まれた。

集会の後、参加者は日比谷公園を出発。霞が関の官庁街や東京電力本店前を通る約二・五キロをデモ行進し、プラカードやのぼり旗を手に「原発いらない」と声を張り上げた。

デモ後の国会前の集会では、各地の原発の地元住民も発言し、再稼働に動く政府や電力会社を強く批判した。

ビックドラッグ　何でも揃う　ビックカメラ　とにかく安い！

国会議事堂前で原発の再稼働反対を訴える大勢の人たち＝13日夕、東京・永田町で

## 原発事故備え 屋内退避訓練

### 新潟・長岡

東京電力柏崎刈羽原発（新潟県柏崎市、刈羽村）の事故を想定し、同県長岡市は十三日、原発から約十キロ離れた同市大積町などの二十四町内会で、住民約六千三百人が参加する屋内退避の訓練を実施した。長岡市によると、屋内退避を重点にした避難訓練は全国的に珍しい。

広報車やラジオなどで屋内退避の指示が伝えられると、同町の公民館で市職員がドアや窓を閉めたり、換気扇やエアコンを止めたりして外気が入るのを防ぎ、テレビで情報を収集した。

東電福島第一原発事故を教訓にした国の原子力災害対策指針は、原発から半径五～三十キロ圏は、大量の放射性物質が放出されていない段階でまず屋内退避し、危険性が高まれば、あらためて遠方へ避難するよう定めている。